

週刊

# 愛知民報

2023年  
2月5日  
第2619号

発行所 日本共産党愛知県委員会

〒460-0007 名古屋市中区新栄三丁目12番25号

☎(052) 261-3461 (代表)

(052) 251-2925 (編集部) F A X (052) 261-6063

定価 月 400円 郵送料 336円 1部 100円

毎週日曜日発行 (第5日曜日は休刊)

## 2月5日 県政選択 女性代表 気迫の訴え



街頭政談演説会で市民共同の女性代表の訴えを聞く人たち。円内は日本共産党の小池晃書記局長＝1月29日、名古屋駅前

### 「最後まで広げよう」

気候危機打開、ジェンダー平等——提案に共感

自民党中心の「オール与党」推薦の代表の「日本一元気な愛知」づくりをすすめるのかそれとも、「気候

自民党中心の「オール与党」推薦の代表の「日本一元気な愛知」づくりをすすめるのかそれとも、「気候危機打開・安心の未来」を掲げる市民共同の女性代表の勝利で住民の暮らしを第一に考える本来の自治体の姿を取り戻すのか、2月5日の政治戦の争点は鮮明です。この争点への理解が広がることで、女性代表への共感と期待が広がる政治戦になって

また、「戦争する国づくり」へ暴走する岸田政権と一体になって、愛知を基地と軍需産業で兵たん拠点にしてきた現県政を変え、政府に対して軍拡でなく憲法にもとづく平和外交を求めるリーダーを愛知に誕生させようという訴えに、支持が寄せられています。さらに、女性代表がかかげる、気候危機の打開、ジェンダー平等の政策は、その分野で実践を積み重ねてきた同代表ならではの提案として、理解と共感を広げています。女性代表の推薦母体「みんなで創る安心の未来」では、日本共産党だけでなく、緑の党、社民党、新社会党、れいわ新選組の有志が共同しています。「革新県政の会」に結集する労働組合などの諸団体に加えて、気候危機打開、反原発など、さまざまな要求で運動している多くの市民団体が共同しています。1月29日に名古屋駅前で開催された街頭政談演説会には1500人が集まり、日本共産党の小池晃書記局長ら各政党の代表が壇上に並びました。政治戦には6人が名乗りを上げていますが、「オール与党」推薦の代表に対して、その政治姿勢や政策を批判し、対案を示しているのは女性代表だけです。そのため、多くのメディアも「事実上の一騎打ち」と報道しています。街頭では「政策を比較した新聞の記事を読んだが、あなたが一番「家族みんながあなたを支持した」「女性はあなただけだから、それをもっと訴えるといよ」など、声をかけてくる人が増えています。政策論戦では、女性代表が抜群です。これを勝利に結びつけるためには、対話の数を飛躍させることが必要です。残された期間、SNSも駆使して、対話を大きく広げるために全力をあげています。

## 県政チェック 「オール与党」代表 「環境首都」というけれど… 石炭火力温存、「水素・アンモニア」、原発も容認



JERA (ジェラ) 武豊火力発電所＝2022年7月、武豊町 (革新県政の会「県政ウォッチング」より)

2月5日の政治戦にむけ、「オール与党」推薦の代表が発表した政策集「あいち重点政策360プラス1」では、10ある大きな柱の9番目に「環境首都あいち」の項目があり、また「産業首都あいち」の項目よりずっと下の位置づけ。また、取り組みとして「地球温暖化対策の推進」の項目では、EV (電気自動車)・PHEV (プラグインハイブリッド車)、FCV (水素燃料電池車)の自動車税課税免除や中小企業向けの購入費補助が紹介されています。実績は総普及台数3万3030台、水素ステーションは39カ所 (2022年3月現在)にとどまっています。カーボンニュートラルの新たな取り組みとして「あいち地球温暖化防止戦略2030」を2022年12月によりやく改定。「2030年度に温室効果ガス総排出量を2013年度比46%削減」としました。CO2など温室効果ガスの排出量は愛知が全国1位。とくに多いのは石炭火力発電所と高炉製鉄所。愛知には碧南市に世界最大級の石炭火力発電所があり、また昨年8月には武豊町で営業運転が開始しました。「実績集」で目立つのは製造過程で多量のCO2を排出する「水素・アンモニア」の社会実証。政策には「石炭火力や原発からの撤退」の文字はありません。市民共同の女性代表は政治戦で、武豊火力発電所の前で演説し「脱炭素推進、省エネ・再エネ」を訴えました。